



### ▼初夏の鳥

初夏の鳥としては、カッコウやホトトギス、ツツドリ、キビタキ、コマドリなどが思い浮かびます。山野に入山した時、もし期待の鳥に出会えた時は、はかりしれない感動を覚えるものです。一方、水田などの湿地ではシギ、チドリなどの飛来が見られます。

### ▼形態

ツツドリの大きさは、全長約32センチ。形や色彩が、カッコウとよく似ており、体の上面や、胸は灰色。腹部が白くて、やや太めの黒色横帯があり（細いものもいる）、尾は黒褐色で斑点があります。虹彩はオレンジ色みがかける黄色。メスはまれに赤色型が見られ、頭や体上面、胸は赤褐色で黒い横縞が見られます。

## 里山に育む生きものたち

### 52 ツツドリ (カッコウ目 カッコウ科)

学名 *Cucuius sayuratus*

文・写真/山口 萬壽美

### ▼分布

ロシア平原やシベリア南部、モンゴル、カムツチャツカ半島、日本、パキスタン、ヒマラヤなどで繁殖し、北の地方のものは、冬季に南へ渡り、インドやオーストラリアなどで越冬します。日本には、夏鳥として渡来し、カッコウより早く渡来するようです。北海道、本州、四国などで繁殖し、本県・澗沼周辺でも見られます。

### ▼習性

澗沼周辺では、夏鳥として4月下旬頃に飛来し、5月中旬頃から山地の落葉樹林帯で見かけます。特に山地や公園の桜の枝に止まり、のどを膨らませて、尾を下にやや下げてよく鳴いています。雄は竹筒を吹いたような声で、ポポッと鳴き、地鳴きはピピピと

鳴きます（メスはよく出す）。ツツドリは、他のカッコウ科の鳥と同じく、自分で子育てをせず、他の鳥たちに子育てしてもらいます（托卵性）。彼らの親として、よく知られている鳥として、センダイムシクイやキビタキ、モズなど10種以上の記録があります。

### ▼観察メモ

昭和48年6月頃、花貫ダム湖（高萩市）の水色の青さに惹かれて眺めていた時、ポポン ポポンとよく透る低い声で鳴いていました。その声は湖底の蒼い藻と共鳴し、寂寥を感じました。

平成6年10月6日、当時私の勤務先は水戸南高校でした。一羽のツツドリが学校に飛来し、窓ガラスに頭部を打ちつけ、「裏庭に転がり落ちていました。」と生徒が段ボール箱に入れて、私のところに届けてくれ、スポイトで水や昆虫を与えながら、理科室で見守りました。2日目の午後、ツツドリは元気を取り戻したようで、生徒がこの鳥を野外へ放しました。すると彼らの頭上の桜の木に止まり、約30分位じっといていましたが、夕暮れが迫って来ると、夕焼けの空に向かうように、遂に飛び立ちました。みんなの拍手に送られて大空に向かって飛び去る鳥の姿は、まさに天女のようなでした。カッコウ科の鳥は、秋になると桜などの樹木に集まる蛾類の仲間・シャチホコの幼虫を満腹にしてから故郷に帰るようです。

編集・発行 / 茨城町 町長公室 秘書広聴課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

### 茨城町の人口と世帯数

※カッコ内は前月比です。  
(住民基本台帳 平成28年6月末現在)

- ◆総人口 33,551人 (-27)
- 男 16,789人 (-17)、女 16,762人 (-10)
- ◆世帯数 12,922世帯

DATA

### 茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

再生紙を使用しています



※環境に優しい大豆インクを使用しています